

「不安定な準備」に意味がある。

社会人に活躍の場で共通して求められるチカラ。思考力、判断力、表現力。主体性、多様性、協働性……。起業家でも、研究者でも、もちろん「会社員」でも。これらは、新しい大学入試で求められるチカラでもあります。我が子は、まわりの大人は、これらのチカラを培う学び＝「準備」、始めていますか？

学びのスタイルを変える必要性。チョーク&トークで一方的に先生が教えるのではなく、子ども達が自ら学びの中心になる。お互いの考えや意見を出し合いながら学ぶ。体験学習、議論、討論、グループワークなど。いま、学びの場で導入するぞ！と声高な「アクティブ・ラーニング」。昨年、文部科学省の調査では、日本の国公立大学の43.4%にあたる338大学がそのためのスペースを設置。その数、ここ3年間で2.5倍に。残念ながら、ただ場所を設置するだけでは意味はありませんが、「答え」が場を支配するのではなく、「考える」が生き生きとする場に。私学の学びの場は、創立当初から子どもが「主体」。授業も、行事も、学び舎にあるすべての時間、空間が「アクティブ・ラーニング」を目指していると言えるでしょう。当然、日能研の学びも同じ。「集団対話型授業」と呼ぶ学びの空間。プログ

ラムやテキスト、先生の立ち位置も、すべては「子どもの学びが真ん中」です。

テストが変わらなければならない。知識の蓄積量や計算の処理能力を測ることを目的とする延長線上ではなく、思考力、判断力、表現力を重視するテスト。そのため評価。点数が持つ意味をはるかに超えて、「自分自身」と出会う。私学の中学入試問題の持つ意味。29年間、日能研の電車内広告『シカクイアタマをマルくする。』でお伝えしている通り。それは定めたライン以上の均一を求める、ふるいにかけるためのテストではなく、「個」の輝きを発掘するために。日能研のテストも同じ。それぞれが「子ども自身」と出会うための問題。自分で考える。自分で決める。相手に伝える。それを表す評価。

多様性が当たり前の時代。未知なる未来——。教育は変わらざるを得ません。我が子が歩む道について謙虚な気持ちで、予測する、多様な視点をもつ。選択のときの我が子を考え、学びの環境を整える。——先に「答え」が定まっている「準備」なんてない。常に動的で不安定。そのとき保護者ができる自分自身の「準備」。そのためにも「変わる」とき。日能研がお手伝いします。＜日能研全国テスト＞で、「不安定な準備」を始めてください。



明日からの学び、このテストから——6月、始める、日能研。

6/14 小2 6/21 小3 小4 小5

日能研全国テスト

参加
無料

【科目】2科目(国語・算数)
【会場】お近くの日能研各校
【時間】1回目 9:00集合
2回目 13:00集合



当日は、お子さまと一緒に日能研へ。

「保護者会」同時開催!

今回の全国テストについて、そのねらいや今後の学びなど、詳しくお話しします!



テストのお申し込みは 検索 またはお近くの日能研へ!

会場により時間が異なる場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。